

平成27年12月2日

生駒市議会議長 中谷尚敬 様

環境文教委員会委員長 下村晴意

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成27年10月29日(木)～30日(金)
- 2 派遣場所 新潟県(県教育庁義務教育課、阿賀野市立安田中学校)、新潟県長岡市
- 3 事 件 (1) 新潟県
・いじめ、不登校等の解消と未然防止の取組について
(2) 新潟県長岡市
・学校・子どもかがやき塾の取組について
- 4 派遣委員 下村晴意、吉村善明、白本和久、山田耕三、改正大祐、松本守夫
- 5 概 要 別紙のとおり

環境文教委員会視察報告書

<p>視察先</p>	<p>新潟県 教育庁義務教育課</p> 
<p>施策等の名称</p>	<p>「いじめ見逃しゼロ県民運動」</p>
<p>視察の目的</p>	<p>いじめ問題は教育上の大きな問題となっている。その対策として、いじめをさせないことが重要と考えられるが、新潟県は、学校内の取組にとどまらず、地域との連携を重視した施策を進めており、いじめ・不登校等の解消と未然防止の取組として、視察研修を行う。</p>
<p>施策等の概要</p>	<p>●取組の背景</p> <p>平成18年にいじめが原因で亡くなる人が発生するなど問題が生じたため、いじめ対策として県民運動を展開することになった。</p> <p>《県民運動の流れ》</p> <p>平成19年～「いじめ 根絶 県民運動」</p> <p>平成22年～「深めよう 絆 県民運動」</p> <p>平成25年～「いじめ見逃し ゼロ 県民運動」</p> <p>●「いじめ見逃し ゼロ 県民運動」の概要</p> <p>【いじめ対策に対する基本的な考え方】</p> <p>いじめはどの学校でも、どの子にも起こりうる。いじめを深刻化させないためには、積極的な認知、早期発見、即時対応が重要。</p> <p>⇒ “<u>学校・家庭・地域の連携と協力が必要</u>”</p> <p>【目標】</p> <p>◎学校・家庭・地域が連携した取組により、児童生徒の社会性を育てる。</p> <p>◎学校・家庭・地域が「いじめ見逃しゼロ」の意識を共有し、連携して児童生徒に関わり、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題の解消や未然防止に努める。</p> <p>県民会議の取組</p> <p>『深めよう 絆 にいがた県民会議』（構成団体：56団体）</p>

《役割》

- 「いじめ見逃しゼロ」の実現のために、学校・家庭・地域の人々が、それぞれの立場で児童生徒に関わることの重要性を周知する。
- 県民ぐるみで児童生徒の健全育成に当たっていく機運を醸成する。

《具体的取組》

- ・のぼり・ステッカーやラッピングバスにより、県民への広報・啓発活動を行う。



- ・地域社会との連携の一環として、企業・団体等サポーターからの支援を受ける。一口1万円の支援料で、平成26年度は142団体からの協賛が得られた。個人サポーターは、著名人だけをお願いし、支援料を貰わず、写真・メッセージ・サイン入りのパネルを提供してもらって、周知活動に利用する。
- ・ネットいじめ防止をテーマに県民の集いを開催したり、CMコンテストを実施する。
「ネットパトロール」を実施している。調査は民間にお願いし、報告を受ける体制にしている。あわせてネット使用のルール作りも行う。
- ・「新潟県いじめ相談電話」を開設し、24時間対応している。

学校の取組

- 学校いじめ防止基本方針に基づく対応
 - ・国の「いじめ防止基本方針」が平成25年9月に施行され、翌年3月には「県 いじめ防止基本方針」を策定して、市町村および全学校においても速やかに「基本方針」をそれぞれ策定した。各学校では「学校 いじめ防止基本方針」に基づいて対応するとともに、いじめ等対策委員会を中核として取り組んでいる。
- 「いじめ見逃しゼロスクール」の取組
 - ・「いじめ見逃しゼロスクール」集会
児童生徒が主体的な取組を中心に実践する。
例：ネットいじめ防止の創作劇

	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ見逃しゼロ強調月間」 保護者、地域と年2回実施し、様々な人々や地域と絆を深める活動を行う。 例：スクール集会でのいじめ防止スローガンの発表 ・「子どもとともに1・2・3運動」 教職員が、欠席の初期のうちに組織的な対応を行い、児童生徒、保護者を支援する。 例：1日目家庭連絡、2日目状況把握、3日目家庭訪問 <p>○指定中学校区取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校等対応実践研究の実施
委員の考察・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ●「いじめ」に対し、県として取組まれた経緯を聞き、子どもの人権を守るための教育の重要性を改めて感じた。 県民会議での学校・家庭・地域の連携した取組により、特に、広報啓発活動の取組は、充実されており、本市において市民会議として取組を考えてみたい。 本市においても、いじめ防止月間、ポスターの設置、横断幕の設置等、広報啓発を実施しているが、県として、県民に対し、いじめを見逃さないとのメッセージは、インパクトがあり素晴らしい取組だと感じた。また、全ての学校における取組と共に指定中学校区取組において、非常に参考になった。 ●いじめを撲滅するより、見逃しゼロ県民運動とした新潟県知事の見識に賛成する。いじめを無くすのは難しいと考えるが、いじめ・不登校の未然防止を目指して小中学校の連携した取組は、本市としても大変参考になる。 ●本市で行うには、まず地域の人々との「いじめを見逃さない」という共通認識を持つことが必要と思われる。 ●いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうるという認識のもと、新潟県は「いじめ見逃しゼロ県民運動」が動いている。 本市と新潟県とは規模は違うが、部活動体験、あいさつ運動、小中ネットワーク集会、体験授業など情報共有、地域との関わりが重要である。生駒市は生駒北小中一貫校が開校となる。中1ギャップの解消など、小中や地域の連携は多くなっていくはずであるが、この生駒北の地域外でも小中や地域との連携は多くしていくべきである。 実践例も示されており、ぜひ具体的な取り組みをしていき、新潟県の見込まれる成果として、地域と連携した体験活動や異年齢での活動を

通し「自分にもいいところがある」「自分は他の人あるいは社会に役立っている」というように、児童生徒が自他の良さや成長を実感したり、他の人に対して寛容になったりすることができる。

また、社会的スキルの育成により、規範意識や望ましい人間関係づくり能力が身につく、トラブルを未然に防ぐことができると思われる。

- 「いじめそのものをゼロにする」と大上段に構えるのではなく、目配り・気配りをして「いじめを見逃さない」という視点で取り組んでいるところを評価したい。本市もこの発想を参考にすべきである。
- 当初立案した計画を頑なに守るのではなく、柔軟に対応し、その戦略を点検・見直し・改善をして、目的を達成する行政の姿勢に多々学ぶところあり。例えば、
 - 1、キャンペーンを3年ごとに、反省を踏まえて、変革してきている。
 - 2、いじめ担当者の研修会でお互いの意見交換会を通じて、良いところがあれば「学校いじめ防止基本方針」を作成したままではなく、その都度、改善・変更している。
- 本市のいじめ防止担当者は、新潟県で取組方法を是非研修してもらいたい。
- 「いじめ見逃しゼロ県民運動」を真剣に取り組んでいることが、多くの関係機関・県民に周知されている。まさに地域力を生かした取組だと感じるとともに、地域力を生かした施策でなければ“いじめ見逃しゼロ”という目的に到達できない課題と考える。本市もこの地域力を取り入れた方法で、いじめ等の減少に努めることが大切だと考える。

環境文教委員会視察報告書

<p>視察先</p>	<p>阿賀野市立 安田中学校</p> 
<p>施策等の名称</p>	<p>「いじめ見逃しゼロ県民運動」実践研究事例</p>
<p>視察の目的</p>	<p>いじめ問題は教育上の大きな問題となっている。その対策として、いじめをさせないことが重要と考えられるが、新潟県は、学校内の取組にとどまらず、地域との連携を重視した施策を進めており、いじめ・不登校等の解消と未然防止の取組として、視察研修を行う。</p>
<p>施策等の概要</p>	<p>●背景</p> <p>多くの生徒は学習や諸活動に意欲的に取り組んでいるが、中学1年次に不適応やトラブルを起こす生徒が多い状況にあった。</p> <p>例えば、家庭状況について、家庭内暴力あるいは近親者の自死などのつらい経験をしたり、あるいは経済的な問題を有する生徒が3分の1にのぼり、学校での生活態度について、髪を染めたり、授業態度が悪いなど服務規律が遵守されず、規範意識の欠如も目立ち、かなり荒れた状況であった。</p> <p>全体的に、自分の行動が他に与える影響を考慮することができない生徒が多く、家庭の経済的な問題や保護者の養育姿勢などの様々な要因から、生徒同士のトラブルや不登校傾向の問題となって表面化することも多く、精神的に不安定で自己有用感が低い生徒が、明確な目標を持たず意欲に欠ける生活を送ることが背景にあったと考えられる。</p> <p>●施策</p> <p>生徒が育むことが望まれる社会性として、自己有用感、人間関係づくり、規範意識、人権意識の高揚を設定しており、これらの社会性育成に向けて、小中連携し、9年間を見据えた社会的スキルの育成、異年齢交流活動による社会性の育成、家庭や地域との連携による社会性の育成をめざして、取組を行っている。</p> <p>また、学校側の体制整備として、各小中に、指導担当の教員を加配し、学校間の連携を推進するために各校の教頭と加配教員による事務局を設置し、家庭、地域との連携と広報を実施している。</p>

	<p>《取組状況》</p> <p>【目標：社会性の育成、小中間の連携、保護者や地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の交通街頭指導時の「小中地域合同あいさつ運動」 ※小中学生だけでなく、地域の人達も巻き込んで、交通安全運動にあわせて中学校区あいさつ運動を展開する。なお、本年度はポスターやタスキ・うちわ等のあいさつグッズを小中一緒になって作成している。 ・保護者、地域代表、生徒、教職員による「安田中学校の未来を語る会」の開催 ・小6と中1を中心とした小中合同のネットワーク集会 ※小中ネットワーク集会のレクリエーションでは、小学6年生がリーダーを務め、中学生はフォロワーに徹する。 ・各教科の授業での言語を主体としたグループ活動や、各行事・体験活動後の相互評価活動 ※「よいとこ探し」活動として、感心したことをメッセージカードを通して相手を認めたり、毎月実施するアンケートにも「何か嬉しかったことはありますか？」とプラス思考で設問するなどの工夫をしている。 ・中学校での部活動体験 ※中1ギャップ解消の一環として、中2の生徒がリーダーとなって指導する小学生部活動体験や、学習規律及び規範等を指導する体験授業を開催する。 ・部活動見学会にともなう親子奉仕活動 ・地域の高齢者を招いての生徒が講師となるパソコン教室の開催 ・人権講話や「いじめ見逃しゼロ集会」での豊かな人権感覚の育成 <p>○組織体制の留意点</p> <p>学校体制の連携として、3つの小学校との小中間交流を促進するため、小学校と中学校の教員間にある溝や縦割りの感覚を排除するよう意識している。また、荒れる現象は、小学校時代の影響もある考え、小中で同じルールを作るなど工夫している。</p>
委員の考察・意見等	<p>●大変荒れていた学校内部での状況を説明いただき、先生方の団結で、生徒たちの心に寄り添い、聞くことを重点に接し、9年間を見通した社会的スキルの育成は、素晴らしい取組だと共感致した。児童生徒一人ひとりの家庭環境の違いにより抱えている問題や課題を知ることが、問題解決の早道だと考える。</p> <p>特に、挨拶運動の中で児童生徒たちが達成感を持ったことは、心に残る</p>

と思う。本市でも挨拶運動を推進しているが、大人の模範を示すことも大切だと感じる。地域での児童生徒に対しての見守りや声かけ運動の重要性も感じた。

●この成功例は、生徒指導主事である一人の熱血教師の並々ならない努力の賜物だと推察するが、一個人の功績に終らせず、それを長年にわたって組織化・マニュアル化し発展させたところが評価される。

●当該中学校がさまざまな工夫を凝らした小中間の交流を展開することによって、中1ギャップのみならず、小中間の垣根を取り払う努力をしている。また、小中学生の意見・感想を見る限り、それらが立派な成果を上げていることも十分感じ取れる。

小中一貫教育の体制を取らなくても、当事者の努力により、実質的な小中学校の融和が果たせることが実証されたように思われる。

●いじめ・不登校の未然防止を目指す小中学校が連携した取組は、本市としても大変参考になる事例がある。

●部活動体験、あいさつ運動、小中ネットワーク集会、体験授業など情報共有、地域との関わりが重要である。生駒市は生駒北小中一貫校が開校となり、中1ギャップの解消など、小中や地域の連携は多くなっていくはずであるが、生駒北地域以外でも小中や地域との連携は多くしていくべきである。

●地域と連携した体験活動や異年齢での活動を通し、「自分にもいいところがある」「自分は他の人あるいは視野階に役立っている」というように、児童生徒が自他の良さや成長を実感したり、他の人に対して寛容になったりすることができている。

また、社会的スキルの育成により、規範意識や望ましい人間関係づくり能力が身につく、トラブルを未然に防ぐことができている。

●ヒアリングを通じて、3小学校からの協力が中学生の意識を大きく高めている。いじめの未然防止や不登校の未然防止には生徒自身の意識が大きくかかわっている。また、1年を通じての行事の中に、地域と学校の関わり・小中学校の関わりが毎月のように行われている。地域との関わりをもつ取組と小中児童生徒の交流の大きく2つがある。

例を上げると、あいさつ運動は秋の交通安全週間にあわせて地域の大人たちと行うことにより、日ごろの地域の大人と接することで町の中でも大人から声をかけてもらう環境が整ってきた。また、小学生部活動体験は中1ギャップの解消を目的として中学2年生が3小学校の6年生に部活動の指導を行い、入学後の不安をなくす目的もあると感じた。

環境文教委員会視察報告書

<p>視察先</p>	<p>長岡市教育委員会</p> 
<p>施策等の名称</p>	<p>「学校・子どもかがやき塾」</p>
<p>視察の目的</p>	<p>子どもたちにやる気と学ぶ意欲をかき立て、夢や自信を持たせる特色ある取組として、学校・子どもかがやき塾事業について視察研修を行う。</p>
<p>施策等の概要</p>	<p>『学校・子どもかがやき塾』</p> <p>子どもたちに夢と自信を持たせ、やる気や学ぶ意欲を引き出すため、学校が創意工夫し、分かる授業の実現や熱中・感動体験、地域との連携・協力による特色ある教育活動に取り組めるよう学校裁量予算を配当し財政支援する事業。また、夢のある企画を立案し採択された学校には、夢企画予算として加配するもの。</p> <p>事業の開始時期 平成18年度～</p> <p>予算（平成27年度予算 46,848千円）</p> <p>全学校87校 1校につき約40万配当</p> <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の被災地支援のため、慰霊と復興の意味が込められた長岡花火を現地で打ち上げ、被災地を勇気づけ、笑顔を届けたいと募金活動等を児童の発案で始めた。 ・地域の特産物を学習の中に取り入れ、地域と連携し、地域とかかわる活動を通して、自分が住む地域に誇りを持ち、地域を愛する心をはぐくむ故郷教育につながっている。 ・長岡空襲の体験談などを基にした創作平和劇の発表に当たり、生徒、教職員、地域、学校が一丸となる取組になっている。 <p>≪導入経緯≫</p> <p>①学校裁量の拡大</p> <p>長岡市では、2学期制の導入や長期休業日設定の弾力化などにより、学校・校長の裁量を拡大してきた。学校運営に当たり、行政として、各学校の特色を生かした様々な活動をしてほしいという願いがあり、学校としても創意工夫をした教育活動をしたい、地域やNPOにも学校の活動に参加してもらいたいという願いがあった。そこで、特色あ</p>

	<p>る教育活動をするには、各学校に裁量権のある予算が必要となってくるため、当事業により学校に予算が配当された。</p> <p>②熱中感動・本物体験の充実</p> <p>長岡市では、数値で見える学力がすべてではなく、読み書き等の基礎・基本学力を土台として様々な体験活動や本物に触れてもらうことで、やる気や意欲が向上し、子どもたち一人ひとりに人間的な魅力を形成していくことが必要と考えられている。</p> <p>本事業を通して、各学校の教育活動の中で熱中・感動体験や本物体験の機会を充実させることを目指して事業を開始された。</p> <p>《事業の成果（児童・生徒に対する教育効果等）》</p> <p>事業を通して、子どもたちは自ら課題を見出し、様々な人・もの・ことと関わりながら、問題解決していく力を高められた。学校に対する地域や保護者の関心が高まり、行事等に参加・協力する姿が見られ、声かけも増えた。</p> <p>地域ごとの特色を生かした教育活動、各学校長の色を出すことができた取組を支援することができた。小学校の児童が夢企画で東日本大震災の被災地で支援活動を行い、児童からは人との関わりや思いやりの大切さに気付くことを体験することができたという声が聞かれた。</p>
<p>委員の考察・意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが積極的に取組み、陸前高田に訪問し、交流し、復興や鎮魂の花火を打ち上げたことなど、この事業の取組により、子どもたちの前向きな姿勢、地域のつながりや、感動することによりそれが夢につながるなど、教育の広がりを感じた。 ●子どもたちが、授業だけでなく、学校教育の中で感動や感謝、他者への思いやりなど多くの体験をしてもらいたいと思います。 特に、学校、家庭、地域で子どもたちを見守り、尊い命をなくすことのないように、他者に対する優しい心を持てる子どもたちに力をそそぐ教育の施策を推進してまいりたい。 ●河井継之助、山本五十六を輩出した長岡市ならではの取組であると感じた。その根底には、米百俵の小林虎三郎の時代の要請に応えられる人材を育成しようという理想が今も学校・かがやき塾事業に受け継がれている。本市でも、将来を担う子どもたちに夢をもち夢を追いかけられるようにするための仕組み作りの参考になると考える。 ●長岡市の学校のように自主性や裁量権を持たせてもらえるのは、余り見かけないことと思われるが、そうするところに自由な発想や独創的な考

え方が出てくるものとする。長年、長岡市で培われた素地や土壌の影響と推察される。

- 教育は未来への希望である、そして米百俵の精神が理念となっている長岡市はどの子にもわかる授業の実現、地域の力、市民の力を生かした教育の推進、熱中・感動体験、3つの方策から成り立っている。

今回、学校・子どもかがやき塾事業の視察であったが、学校裁量を拡大するといったとてもユニークな試みである。学校として創意工夫した教育や地域、地元、NPOにも学校の活動に参加してもらう目的がある。学校の裁量が大きい分、自由度も上がり良い面も見られるがその反面、長岡市の課題として挙がっていた、安易な予算の使い方をしている学校もあるのが現実である。

任せている以上内容の差が出てくるのは仕様がないうちであるが、出来るだけその差を埋めることが必要である。あと予算を出している以上、成果が見えにくいという問題がある。体験を数値化することは難しいが、単発ではなく継続的に事業を行い、一人でも多く感動を共有するべきだと考える。

また、学校・子どもかがやき塾も教育事業の一環であるが、教育事業が窓口になり、年々事業連携が進み、今期は子育て支援が教育事業の一つになっていた。決して縦割りではなく間口を広げ、横串を通すような形で事業連携を進めることは重要なことであるとする。

- 小学校59中学校27校あり、その中には7クラス100人規模校から大規模校まで様々でまた、面積は本市の約1.7倍891km²あり、地域ごとの特色を活かした教育活動、各校のそれぞれにあった取組みを支援することができていると感じる。

本市においても同様の取組が可能ではないか。既存の行事をより良いものに、ホンモノに接する経験をするところから始めてみるのはどうか。

例を上げると、音楽発表会や早朝マラソン週間などの既存の行事にプロフェッショナルを招いて児童生徒に本物へ接してもらう。ブラスバンド活動が盛んな生駒では数校で自衛隊音楽隊の演奏や指導を行うと、クラブ活動を行っていない者にも素晴らしい経験になるのではないかと。

まずは既存の行事からの派生することによって、地域やNPOを巻き込んだ活動を行えば現場の教諭にもそれほど負担感はないはずである。

「学校計画事業・校長裁量事業」1校上限30万円なら予算600万円なら捻出可能であり、情操教育や熱中するものを探し感動体験を考えれば挑戦する価値はある。